

■ 本コースで使う主なテクニックと学習内容

■ シャドーイング

最近では、多くの学習者に知られるようになってきた練習テクニックです。やり方は、英語を聞きながら、ほぼ同時にその英語を口に出して繰り返しながらかついていくもので、音の聞き取りに非常に困難を感じるレベルから、同時通訳者のレベルまで、焦点の当て方次第であらゆるレベルの人に効果のあるテクニックです。

ただし、やみくもにシャドーイングを繰り返していてもなかなか成果ができません。シャドーイングで本当に効果をあげるための視点と練習方法を教授します。具体的な効果の例としては：

- ・ 聞き取り／理解力の本当の弱点の認識
- ・ アクティブボキャブラリーを増やすことで、スピーキング能力の強化
- ・ 英語の自然な音やリズムの感覚の体得

■ 文法・構文簡単レビュー

推測に頼ったサバイバル英語を脱皮するには、どうしても必要な土台です。K/H システムでは、実戦で本当に必要な文法の基本ポイントと、英文の文の作り方の特徴を、頭でっかちでなく、簡単に噛み砕いてレビューします。本当に大事なポイントが何なのかがクリアになり、文法が怖くなくなります。英文を作るのも、身につけるのも今よりずっと容易になり、同時に、丸暗記でなく、応用のきく形で英文が身につくようになります。

■ 構文立体トランスクリプト

文法・構文レビューでの概念を利用して、現実の英文を英語の構造に即して視覚的・立体的に表した英文テキスト(トランスクリプト)です。これを練習時に常時使うことで、文の構造(構文)を見抜く感覚が自然に強化されます。それが、現場で、構文も文法も正確なスピーキング力・リスニング力となって現れます。

■ 英語のリズム・リエゾン クリニック

日本語的な音で英単語を覚えていたり、単語単位で英語の発音に慣れていただけであるために、知っている単語ですら聞き取れないという実にもったいない状況が多くの学習者に起こっています。英語は、何単語もつながった「かたまり」単位で音が連結し合い、弱強の大きなリズムで拍が刻まれる言語です。この英語の「リズム」と単語間の音がつながる「リエゾン」の感覚をつけることで、聞き取り力の大きな飛躍が起こります。

■ 文頭から意味をとる

英文解釈的に文末まで待ってから意味を理解しようとする、実戦では歯が立ちません。英語の文は、結論的な情報をまず出してから、それに付随する詳細情報を付け加えるという「文のつくり」になっていて、情報の順序に典型的な特徴があります。そのパターンを知り、意味の「かたまり」で、文頭から正確に意味をとらえていく聞き方へと「聞き取りのフォーム変換」を行います。実戦での聞き取りのためには、音の力と同時に、この力がもうひとつの大きな柱になります。

■ 英語を「かたまり」でとらえる

一単語一単語を追ってはいは、処理過程が多すぎて、聞き取りの実戦では太刀打ちできません。「音のとらえ方」「意味のとらえ方」の両面で、「かたまり」で処理する感覚、「かたまり」で身につける意識が重要です。①英語のリズムとリエゾンの感覚、②英文のつくりの特徴に対する慣れを強化する練習を通して、実戦に不可欠なこの感覚を身につけていきます。

■ やまと言葉落とし

英語の語句の意味を、辞書的で硬い「よそいきの言葉」で覚えていては、実戦のスピードでズバツと「頭にしっかり残る」理解ができず、「何となく分かったつもりだったのに、すぐ忘れてしまう」「訳は一応言えるのに、結局何を言われているのかスッキリしない」といった現象になります。辞書の「訳語」レベルの理解から一歩進んで、①「自分の日常的な発想にある身近な(‘イメージ’に近い)ことば」に落として理解する、②英単語のコアの意味をつかむ、といった視点や習慣を身につけてもらいます。「英語を英語のまま意味として理解する感覚になる」ために重要な練習方法です。

■ 同時通訳風意味落とし

リアルタイムで正確に英語の意味をつかむ「聞き取りのフォーム」に慣れてきたら、練習をやりこんだ英語を使って、同時通訳のような練習をします。負荷の高い練習ですが、意味の処理スピードが上がり、正しいフォームの定着もはかれます。「英語を英語で理解している感覚＝英語を意味としてダイレクトに理解している感覚」を体験できる練習です。K/H システムのステップどおりに学習する

と誰でもできるようになります。